

民生委員制度 発祥の地 おかやま

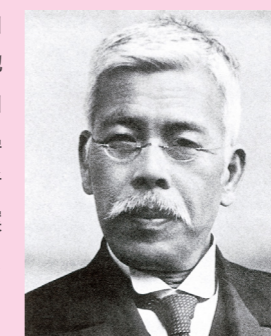
高齢者や障がいのある方の福祉に関すること、子育てなどの不安等、様々な相談に応じる民生委員。誰もが安心して生活できる地域づくりをめざす民生委員制度は、1917（大正6）年に岡山県で創設された「済世顧問制度」がその起源だとされています。全国共通の福祉制度の発祥の地で、社会福祉の先駆者たちの足跡をたどってみましょう。



岡山県知事を務めた 済世顧問制度の生みの親

笠井信一（1864～1929）

静岡県に生まれ、1914年から岡山県知事を務めました。1916年の地方長官会議の席で天皇陛下から岡山県の教育や貧困者の状況について尋ねられると、すぐさま県下の貧困者の実態調査を行い、住民の生活を案じて外国の防貧対策などを研究しました。その成果を「済世顧問制度」としてまとめ、1917年5月12日に公布。現在の民生委員制度の源となったこの制度の公布を記念して、5月12日は「民生委員・児童委員の日」となっています。

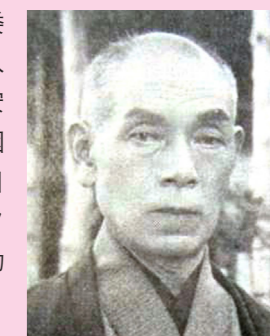


提供：(福)岡山県社会福祉協議会

最初の済世顧問となった 民生委員活動の草分け的存在

藤井静一（1870～1952）

社会福祉事業に生涯を捧げ、民生委員制度の生みの親の一人となった人物です。1891（明治24）年頃に安部倉地区に帰郷すると、経済的に困窮した農民たちの荒んだ暮らしを目の当たりにし、貧困者の救済をスタート。生活改善や勤労と儉約を奨励し、農村社会事業に尽くしました。これらの取り組みは当時の笠井信一の目にとまり、済世顧問制度の創設にあたって参考とされ、実際に最初の済世顧問の一人となっています。まさに日本の民生委員第1号の誕生でした。



提供：岡山県立記録資料館

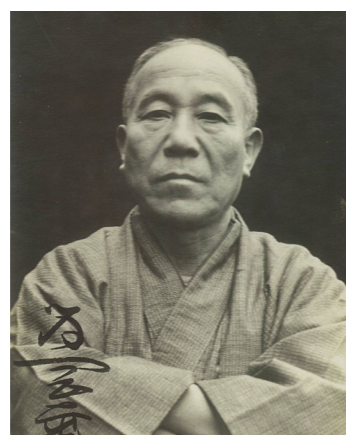
救済事業に取り組んだ おかやまの“四聖人”

明治時代の中頃から昭和初期にかけて、後に「岡山四聖人」と呼ばれる人たちが、恵まれない人々に深い愛情をもち、救済事業に熱心に取り組みました。彼ら四聖人の活動に刺激され、岡山県では各地で社会事業が展開されるようになり、市町村に済世会が設立されるなど、行政を中心とする組織的な取り組みが県下に広がるきっかけとなりました。

少年感化事業の実践家

留岡幸助（1864～1934）

岡山県上房郡高梁町（現在の高梁市）で生まれ育って牧師となり、北海道で受刑者に教を説く教誨師として日本の行刑制度の改善に努めた留岡幸助は、監獄の改良よりも根本的な対策になると、非行少年の矯正を図る感化事業に関心を持ち、1899（明治32）年に東京巢鴨に「家庭学校」を創立。少年の感化事業に尽力しました。また、1914（大正3）年には「北海道家庭学校」を設立するなど、社会事業への啓蒙に尽くした、「感化事業の父」と称される人物です。



提供：(福)北海道家庭学校

岡山孤児院を創設した“児童福祉の父”

石井十次（1865～1914）

岡山医学校（現在の岡山大学医学部）で学ぶ医学生だったとき、ある孤児を引き取ったことをきっかけに、孤児救済事業に専念するようになった石井十次。目指していた医師になることを断念してまで孤児救済に尽力しました。のちに英国のキリスト者ジョージ・ミューラーをモデルにしてキリスト教信仰に根ざした岡山孤児院を創設。生涯を孤児救済に捧げた慈善事業家である石井十次は、その功績から「児童福祉の父」とも言われています。



提供：(福)石井記念友愛社

日本人初の救世軍士官

山室軍平（1872～1940）

岡山県阿哲郡本郷村（現在の新見市）の農家に生まれ、石井十次に強い影響を受けて孤児の救済に熱心に関わりました。キリスト教慈善団体である救世軍が日本で活動を始めると、日本人最初の救世軍士官（伝道者）となって、大衆に分かりやすい宣教活動に情熱を傾けました。苦しむ人に手を差し伸べて行動に移す軍平の社会事業は多岐に渡り、労働紹介所の設置や児童虐待防止運動の開始、結核療養、婦人・児童保護、貧困者医療などにも携わりました。



提供：救世軍日本本営

岡山博愛会を創設した宣教師

アリス・ペティ・アダムス（1866～1937）

ニューハンプシャー州ジャフレーに生まれ、小学校教師などを経て、1891（明治24）年にアメリカン・ボードの海外派遣宣教師として岡山へ。その年のクリスマスには岡山市郊外の貧困地区の子どもたちを自宅に招いてクリスマス会を開催し、地区の改善を決心しました。英語教師をしながらやがて小学校や施療所などを開設し、これがのちの岡山博愛会病院に発展します。その後も岡山博愛会の会長として医療・社会福祉の活動に惜しみなく尽力しました。



提供：(福)岡山博愛会

岡山後楽園から岡山城へ 笠井信一の像を見に行こう!

岡山城には、時の県知事・笠井信一の像が建っています。岡山駅からスタートし、岡山後楽園、岡山城へと巡るルートで、笠井信一像の姿を確認してみましょう。

アクセス 岡山駅から約1.5km



バス
岡山駅①のりばから、後楽園への直通バスが運行中。後楽園までは約10分



路面電車

岡山駅前から城下電停(岡山城・岡山後楽園口)下車。徒歩約7分で岡山城へ



1 後楽園 岡山藩2代目藩主・池田綱政が築いた大庭園。日本三名園の一つ。



3 笠井信一像 民生委員制度創設40周年を記念して建設された「笠井信一先生」の銅像。



4 岡山城

慶長2年(1597)、豊臣家五大老の一人・宇喜多秀家が築城。国指定の史跡。別名烏城(うじょう)、金烏城(きんうじょう)とも呼ばれる。



岡山桃太郎空港を見下ろす 藤井静一ゆかりの地を訪ねよう!

岡山桃太郎空港近くの岡山市北区三和(みと)に、藤井静一ゆかりのスポットが多く残っています。滑走路が一望できる展望台から歩く約1時間(約1.5km)の周遊ルートのウォーキングを楽しみませんか。

アクセス 岡山ICから約11km



A 空港前の通り(県道61号妹尾御津線)から左へ入る



B 次の交差点(カーブの手前)を右折し、さらに次のY字路を右へ



C 四叉路の中央を進んで展望台へ



D 展望台にクルマを置いて、ここからは徒歩で散策へ



7 岡山桃太郎空港



1988年3月の開港からの利用者は累計3500万人以上。開港30周年の節目に愛称が「岡山桃太郎空港」に決まった。



1 藤井静一翁之碑 藤井静一氏の活躍を称える藤井静一翁之碑。毎年春と秋には地域住民が集まって「済世まつり」が行われる。



2 済世庵 藤井静一氏が晩年を暮らした安部倉山の済世庵。そばには藤井静一翁之碑がある。



3 松尾神社 安部倉・松尾神社。延宝二年現在の地に遷座した。



4 済世記念碑 松尾神社境内にある済世記念碑。藤井静一氏の偉業を称える笠井信一の文が刻まれている。



5 済世会館 藤井静一氏の活動拠点である済世会館。改修を経て、現在も地域住民の活動の場となっている。



6 自然の森スポーツ広場 滑走路に面した自然の森スポーツ広場。野球場やテニスコートのほか、アスレチックも充実。